
カオスパッカーズ

壬生京次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カオスバツカーズ

【Nコード】

N4483BA

【作者名】

壬生京次

【あらすじ】

あのコメディ漫画で有名な銀魂とバトル漫画奪還屋がコラボ！！
(他の作品も多少混ぜております)
無理難題なミッションを解決せよ
ギャグを中心にミステリアス、シリアスな物語も用意しております

宣伝は大切（前書き）

京次「あくまで宣伝なのであしからず。」

宣伝は大切

女性「万事屋と奪還屋？」

??「そゝよ！そして俺が奪還屋の美堂蛮！！」

??「そして俺が天野銀次！！」

ウニ頭にサングラスの男と、金髪の大柄の男が言った

??「そして万事屋の坂田銀時でゝす．．．」

そして銀髪テンパの男が気だるそうに言った

蛮「そう！！」奪われたモノは取返せ！！頼みごとはすぐこちらをスローガンにした三人組！！『万事奪還屋』とは俺たちの事よ！！！！」

銀時「ちなみに助手が数名います」

銀次「そのところよろしく」

宣伝は大切（後書き）

京次「次回から本編始まりますので、よろしくお願いします!!」

第一訓 食べ物自分で手に入れるモノ（前書き）

京次「それでは第一話始まります！！こんな作品を読んでもらえば嬉しいです」

第一訓 食べ物は自分で手に入れるモノ

キンコーンカーンコーン

季節は夏

江戸ーの高校、澄空学園のチャイムと共に「塚本志雄」の学校の授業が終わった

グツ・・・

志雄「うーん・・・ようやく終わったか・・・」

彼のこと塚本志雄は澄空学園の生徒であり、委員会をつとめているごく普通の生徒である

そんな彼が背伸びしていると

?? 「何眠そんな顔してんのよ！」

?? 「まあ志雄は、いつもあの人達の世話してるもんなさ」

ふたりの男女が話しかけてきた

志雄 「なんだよ、りりすに亨か・・・」

志雄は面倒くさそうに返事した

女子の方の名前は「遠峯りりす」

志雄の幼馴染であり、同じく澄空の生徒である

必殺技はローキック

りりす 「誰の必殺技がローキックですって!？」

志雄 「誰にいつてんだよ・・・って言うかお前以外に誰かいるか？」

亨 「ところで志雄、お前今日も委員会か？」

男子の方の名前は「佐賀亨」

志雄の友人であり、りりすにゾッコンの男である

志雄 「いや、今日は特に何も無いから休みだったはず」

亨 「だったらよ、みんなで裏新宿行って遊びにいかねえか？」

りりす 「智紗も一緒に行かない？」

智紗 「え？私も？」

りりすは志雄の隣の席にいた長い黒髪を持つ女の子に聞いた

彼女の名は「箱崎智紗」

志雄と同じ委員会に所属しており、原作とは違い、志雄達と同じクラスメートである

志雄「一緒に行こうよ！箱崎さん」

智紗「え．．．／／あ．．．うん」

智紗は戸惑いながらも小さく頷いた

りりす「あーら、志雄ったらお誘い？積極的ね」

亨「志雄も変わったな」

二人はニヤニヤ笑いながら冷やかした

志雄「ばっ．．．馬鹿！そんなんじゃないよ！！／／／」

智紗「そ．．．そうだよ二人とも／／／」

顔を耳まで真っ赤にしながら否定した

りりす「はいはいわかったわよ」

亨「それじゃ、そろそろ裏新宿まで行こうか！」

そして四人は学校から出て、裏新宿へと向かった

裏新宿

蛮「ね〜ね〜！そのかわい子ちゃん！〜ヒマしてない？そこで飯でもとらない？腹減ってさ〜俺達」

女子高生A「え〜どうしよう」

女子高生B「どうする?」

女子高生二人が悩んでいると

ズイ

銀時「あれ?よく見たら君、結野アナに似てない?て言うか本物?」

銀時はプルプルと作り笑いをしながら言った

女子高生A「え?まあ時々間違えられるけど!あの子マイナーじゃない?」

ブチツ!

銀時「いゝや!似てるって!特に眼が二つあるところとか!」

銀時(似てねーよ!!てめえ見たいな、どブスを俺の結野アナと一緒にすんじゃねええ!!そして勝手にマイナーにすんなああ!!)

銀時は心の中でキレながらも、作り笑いを続けた

蛮「あつ!!そついえば君も、仲間由紀恵系だよね?髪型だけ」

女子高生B「アハハ?お兄さんたち上手い」

銀時「な〜に言ってるんだよ!俺たちは見たままを言ってるだけだよ!!なつ!!」

ゴスツッ!!

銀次「ぐふっ!!あ・・・アハハ・

・・・」

銀次はニコニコしたままの銀時に肘鉄を入れられた

蛮「どうする?とりあえず店でも入ろっか!？」

女子高生A「え〜でもどこ入るう?いきなりボックスとかでもいいよ?」

ズイ

銀時「じゃあさ!そのファミレスに行ってさあ〜、デザートのパフェ付きのセットでも〜

俺たちにおごってよ?」

バキッ!!

銀時は女子高生2人の鉄拳をくらった

そして女子高生二人はスタスタと別の道へと進んで行った

銀次「大丈夫?銀さん?」

ポンポン

銀次は殴られた銀時を心配した

銀時「ふざけんなあああ！せっかく一瞬でも結野アナと一緒にしてあげたのによ！パフエぐらいケチすんじゃねええええ！！」

蛮「どうせ援交で荒稼ぎしてるんだろ！！このなんちゃって女子高生！！本当はババアだろ！！あ！？」

二人は女子高生に向かって叫んだ

銀時「てめえら二度とお目覚めテレビ見るんじゃねえぞコノヤロー！！」

蛮「厚化粧しやがって！！デスマスク作りてえんならセッコウでも塗ってる！！」

銀次「もうやめよう・・・銀さん、蛮ちゃん・・・さすがに恥ずかしい・・・／／／」

銀次は2人をズルズルと引っ張った

銀時「だいたいよ、蛮の作戦が悪りいんだよ！何であんなやつを結野アナと一緒にしないといけないんだよ！！」

蛮「バーカ！おだてないと女子高生はおごってくれねえんだよ、結野アナは可愛いだろ？それが現実だ」

銀次「蛮ちゃん・・・その前に俺達は何日も飯を食ってない現実見ようよ・・・」

スリスリ・・・

銀次は音のなる腹を撫でながら言った

銀時「あー！甘いモン食ってねえからイライラするうううう！！パ
フエ食いてえええ！！！」

蛮「うっせえ！糖尿病！！何か食いたければためえも仕事探せ！！」

銀次「誰か・・・ご飯を・・・」

三人が欲求不満をたらしていると

ザツ！！

志雄「この叫び声・・・やっぱりあんたらか・・・」

りりす「案の定、行き倒れていたわね・・・」

亨「お久しぶりです！万事奪還屋の皆さん！！」

智紗「誰・・・なの？」

志雄たちが現れた

蛮・銀時・銀次「あ、塩だ！！」

志雄「誰が調味料の塩だあ!!」

智紗「塚本君、そのツツコミもしアニメだと分かりにくいと思う・・・」

裏新宿に志雄のツツコミがこたました

所変わって「HONKY TONK フミ&お登勢」

そこには店の名前通り、店長の「王^{ワン} 波児^{ポール}」と「お登勢」そしてベテラン料理主婦の「フミ子」が定食屋を営んでいた

ちなみにフミ子はりりすのおばあちゃんである

カランカラン

フミ子「は〜い！いらっしやい！

．．．あら、志雄ちゃん達じゃない．．．」

志雄「すみません．．．お願いできますか？」

志雄はフラフラしている変たちを見ながら言った

波児「なんだこいつら、また失敗したのか？」

バサッ

波児は新聞を見ながら言った

お登勢「全く．．．常に人から飯をおごってもらおうと考えてる奴らなんか飯なんか作らなくてもいいんだよ、フミ．．．」

お登勢はタバコを吸いながら言った

銀時「うつせえババア！！元をたどれば蛮がこの前の報酬を酒と寿司で消したのが原因なんだよ！！」

銀時は蛮を指でビシツとさしながら叫んだ

蛮「ふざけんな糖尿病男！！おめえだってパチンコで半分くらい消したじゃねえか！！」

銀次「2人ともやめなよ．．．」

銀次は叫ぶ2人を制していた
その様子を見ていた志雄達は

りりす「いゝい智紗？あんな大人になつたら絶対ダメよ？」

智紗「ちよつとりりすちゃん！それじゃ、あの人達がダメ人間みたいじゃない！失礼だよお．．．」

亨「まあ、半分NEETみたいなたちだし．．．」

銀時「おいしいいい！！誰がNEETでダメ人間だ！！俺はこれでも事務所の社長みたいなモンだぞ！！」

銀時が三人にツツコンでいると

カタッ

フミ子「はい、万事奪還屋の方達、ご飯できたわよ」

蛮・銀次・銀時「(ピクッ)」

フミ子が料理を持ってきた

ガッ！！バクッ！！モグッモグッ！！ドン！！

蛮「あー！！銀次てめえ！！俺の豚汁取っただろ！！」

銀次「取ったモン勝ちだもんねー！！て銀さん！！俺のデザートが
ああ！！普通は食後でしょ？」

銀時「うるせえー！！そんなの関係ねえ！！お前のスイーツは俺の
モノ！！俺のスイーツは俺のモノだああ！！あ、波児！三人分のコ

「ヒーミルク頼むわ」

銀時・銀次・蛮「ツケで？」

そう言い合いながら三人は料理を無茶苦茶に食べまくった

志雄「はあく．．．俺のおごりだからってガツガツ食べまくりやがって．．．」

志雄は深いため息をついた

お登勢「ホント、あんたも苦労するわね」

波児「あいつらが、ツケを払うのは何年後になるのやら．．．」

2人は志雄に同情の眼差しを送った（波児は真っ黒のサングラスで眼は見えないっというツツコミはなしで）

智紗「ねえ、塚本君．．．」

志雄「何？箱崎さん？」

智紗「この人達、大人なんだよね？仕事は何をしているの？」

そう言った瞬間

二イ．．．

蛮「よくぞ聞いてくれたお嬢さん．．．」

智紗「え？」

ザッ・・・

蛮「『何事でも奪られたら奪り返せ』をテーマにした『万事奪還屋』さん？」

銀次「通称『GET ABCKERS』!?!」

銀時「ちなみに成功率ほぼ100%」

そう言いながら三人は智紗へと近付いた

蛮「俺が美堂蛮」

銀次「で・・・俺が天野銀次」

銀時「んで、坂田銀時です」

蛮「そして・・・」

ビッ

銀次・蛮・銀時「助手の塚本志雄」

三人は志雄を指しながら言った

志雄「だれが助手だよ!」

智紗「奪られたら奪り返せ・・・」

志雄がツッコンでいるとき、智紗はそのワンフレーズを呟いた

亨「箱崎さん？どうしたの？」

すると

智紗「あ．．．あの！！」

蛮「あ？」

智紗「私．．．GET BACKERSさんに奪り返して欲しいモノがあるんです！！」

志雄「箱崎さんが．．．」

りりす「奪り返して欲しいモノ．．．」

その一言がGET BACKERSに嵐をよんだ

第一訓 食べ物は自分で手に入れるモノ（後書き）

京次「他にも登場して欲しいキャラ、もしくは作品があれば、感想の一言にてお書きください！それでは第二話までごきげんよう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4483ba/>

カオスバッカーズ

2012年1月14日01時01分発行